

松井久実（動物生理学）、坂西梓里（社会連携型PBL）、村山史世（地域環境政策）

研究の背景

- 野外調査を通じオオサンショウウオの生態や魅力に触れ、その集団が暮らす地域社会の課題やオオサンショウウオなど野生動物との関わり、地域の未来について考えアクションプランを立案する課題解決プロジェクトです。
- オオサンショウウオは西日本の山里の清流に棲む世界最大の両生類ですが、それらの地域では人口減少の課題を抱えています。
- オオサンショウウオが暮らすには里山が保たれ、また豊富な餌資源が維持される環境も必要です。
- 人とオオサンショウウオが共に暮らす未来のためのアクションプランを全世代で考えていく必要があります。



オオサンショウウオ Giant salamander
Andrias japonicus (Temminck, 1836)

アプローチ

オオサンショウウオを知る

- 勉強会でオオサンショウウオについて事前学習します。
- 現地（島根県）の夜の川を歩き、オオサンショウウオを探し捕獲、彼らの生態を知り、個体情報や身体情報の測定、超音波検査装置を用いて体内を探索し個体の行動履歴や身体の変化を調べます。
- 研究室にデータを持ち帰り、個体データベースと照合していくとともに、調査で感じたオオサンショウウオの魅力を言語化、発信するための方法を検討します。

地域を知る

- 勉強会でオオサンショウウオの暮らす地域の歴史や社会課題について事前学習します。
- 現地調査やインタビューなどを通じ、地域の社会課題に対しオオサンショウウオが関われる可能性を模索します。また、野生動物であるオオサンショウウオの保全と地域の課題解決のバランスをどのように捉えていくのかについても考え、プロジェクト終期にはアクションプランを立案します。



期待される結果

- 立案したアクションプランは日本オオサンショウウオの会で発表し、参加者からのフィードバックを受けます。良案は実際の取り組みとして展開できる可能性もあります。

現状とこれから

ジェネプロ2年目のプロジェクトです。2022年度はフィールドの開拓、オオサンショウウオ保全についての意識調査を行っています。プロジェクトを継続しさらに展開します。

2022年度プロジェクトの1コマ。
夜間調査で川の水からDNAを抽出。

- ハンザキとはオオサンショウウオの別名です。半分に裂いても再生すると信じられていました。（実際にはそんなことはありません）

- 日本オオサンショウウオの会は、研究者から市民までオオサンショウウオに関心のある人達が世代を問わず参加する団体です。